

単元(題材)の内容や時間のまとまりを見通して、授業をデザインします。

ここに示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも例示の通りである必要はありません。

第〇学年〇〇科 学習指導案

指導者 ** **

1 単元(題材)名 *****

2 本単元(題材)の目標

- (1) ***** (知識及び技能)
- (2) ***** (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ***** (学びに向かう力、人間性等)

3 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
*****	*****	*****
本単元(題材)の目標を基に、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)を参考に作成します。		

4 単元(題材)について

(1)~(3)と項立てしないで、段落ごとに書いてもかまいません。

(1) 教材(題材)観

単元(題材)のねらいと他学年との関連を入れて、単元(題材)構想の意図について記述します。

(2) 児童生徒観

本単元(題材)につながるこれまでの学び、県学力診断のためのテストの結果やレディネステストなどの実態調査(できるだけ数値化したもの)から、本単元(題材)における児童生徒の身に付けたい資質・能力などを記述します。

(3) 指導観

児童生徒観に書かれた課題を受け、単元(題材)のねらいに迫るための指導上の手立てを記述します(カリキュラム・マネジメントを意識した手立てなども入れていけると、なおよいでしょう)。

5 単元(題材)の指導計画(5時間扱い) ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知技	思	態	評価及び評価方法等
1	1 2	問題(課題) ***** ◎ 育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる 主な活動 を入れます。(※1) ◎ 観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく単元や題材など 内容や時間のまとまりごと に、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価する場面を精選することが重要です。 ◎ まとめ(結論)	○			知：(◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか)について見取り、理解していない児童生徒には(理解できるようにするための手立て)を講じる。【ワークシート、観察】 態：(学習活動に)向かっていない児童生徒を見取り、(活動に向かうための手立て)などの指導を行う。【観察】 ◎指導に生かす評価場面は、単元(題材)の評価規準を(1時間ごとや)まとまりに落とし込み、何について見取るのかを具体的に表すと共に、Cと判断される児童生徒についての手立てを示します。

